

ColonYen ユーザーズガイド

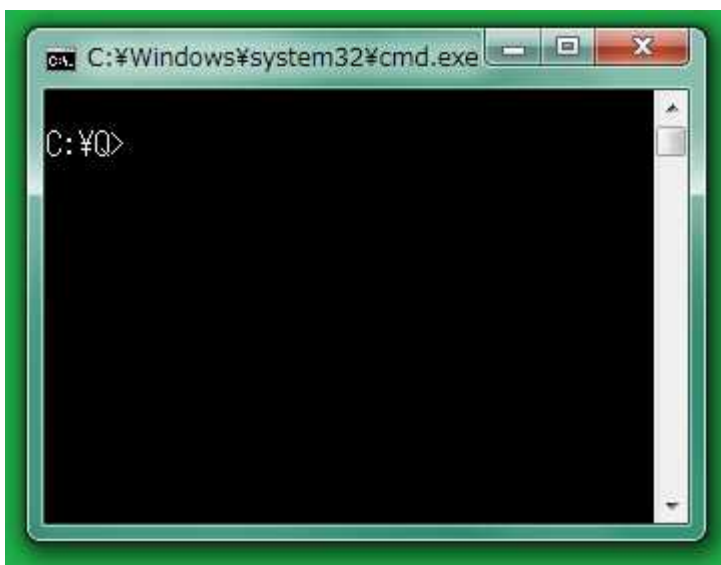
ColonYen のショートカットをダブルクリックして、コマンドプロンプトを開くことができます。コマンドプロンプトが開く前に、ColonYen は、カレントディレクトリを設定します。コマンドプロンプトが開いたら ColonYen 自体は、終了します。

ピクセル単位の幅、高さ

コマンドプロンプトのプロパティと異なり、ColonYen は、コマンドプロンプトの幅および高さをピクセルの単位で設定できます。

相似形

利用者がコマンドプロンプトの高さのみ変更した場合、コマンドプロンプトのプロパティと異なり、ColonYen は、自動的にコマンドプロンプトの幅を設定できます。たとえば、12 行を指定すれば、38 桁に設定されます。標準的なコマンドプロンプトの相似形として、小さいコマンドプロンプトを開くことができます。



スクロールバー無しのウィンドウ

高さ方向のスクロールバーが無いコマンドプロンプトを開くことができます。

最小化

利用者が最小化ボタンを押さないで、コマンドプロンプトを最小化できます。

強制終了

利用者が[閉じる]ボタンを押さないで、コマンドプロンプトを閉じることができます。

カーソルの位置を表示

ポインティングデバイス(マウス、タッチパッドなど)のカーソル(矢印)が画面のどこにあるか、タイトルバーに座標を表示できます。

インストール

ColonYen は、Windows の GUI アプリケーションです。32ビット版の Windows 7 において、Borland C++ 5.5.1 for Win32 で構築しました。

パスを通す手順の例

1. トリシーカー (<http://tori.tobihiro.jp/PDF-zip-7z.html>) というウェブサイトから ColonYen.zip をダウンロードしてください。
2. ColonYen.zip を展開してください。
3. Cドライブに ColonYen フォルダを移動してください。
4. Windows ログキー(田キー)を押しながら Pause を押してください。
5. メニューからシステムの詳細設定を選択してください。
6. 詳細設定タブをクリックしてください。
7. [環境変数]ボタンを押してください。**キーワード:システム、詳細、環境変数**
8. システム環境変数として、Path が見えるまでスクロールしてください。
9. Path をクリックして選択してください。
10. [編集]ボタンを押してください。
11. Windows 10 の場合、[テキストの編集]ボタンを押してください。
12. 右向き矢印(→)キーまたはEndキーを押してください。カーソルが末尾に移動します。
13. フォルダのことをディレクトリとも言います。セミコロン(;)は、ディレクトリどうしを区切る記号です。 ;C:¥ColonYen を入力してください。
14. 各ウィンドウで OK ボタンを押してください。

フォルダごと削除

アンインストール(プログラムの削除)を行うには、ColonYen フォルダごと削除してください。Path から C:¥ColonYen を削除してください。

【重要】C:¥ColonYen が必要です。C:¥ColonYen のフォルダ(ディレクトリ)には、以下のファイルが自動的に用意されます。利用者は、これらのテキストファイルを閲覧できます。テキストエディタで ColonYen.txt を編集してください。

ファイル	実行または読み込み	説明
CMD_PID1.bat	File メニューから Terminate を選択したら実行される。	編集は、不要です。
CMD_PID2.bat	File メニューから Terminate を選択したら実行される。	編集は、不要です。
ColonYen.txt	ColonYen が起動するとき、読み込まれる。	第 1 行に作業ディレクトリのパス名を記入してください。カレントディレクトリが設定されます。
MODE_CON.bat	コマンドプロンプトを開くとき、実行される。	編集は、不要です。コマンドプロンプトを開く前に、上書きされます。
slow.txt	ColonYen が起動するとき、読み込まれる。	必要に応じて、利用者は、slow.txt を編集できます。

著作権

Sogaya(そがや)は、ColonYen の著作権を保有しています。

免責条項

ColonYen のご利用によって発生するいかなる損害も、Sogaya は、責任を負わないものとしします。

構築

32ビット版の Windows 7 において、Borland C++ 5.5.1 for Win32 で ColonYen を構築しました。GUI ライブラリは、Win32API です。ソースコードを添付しました。

ユーザーズガイド

2020 年 6 月 4 日 Revision 1.016

設定ファイル

ColonYen のショートカットを作成するには、エクスプローラで ColonYen を表示して、たとえば、右クリックして、メニューから[送る]を選択して、サブメニューからデスクトップを選択してください。C:¥Q を作成するには、たとえば、C:を右クリックして、メニューから新規作成を選択して、サブメニューからフォルダを選択して、名前として Q を入力し

て、Enter を押してください。さもなければ、新しいフォルダを Q に改名してください。

CD コマンド

現在のディレクトリをカレントディレクトリと言います。一般論として、CD コマンドで、作業ディレクトリ(C:¥Q)をカレントディレクトリにすることができます。すなわち、利用者は、CD コマンドで作業ディレクトリに移動できます。どの Windows も最初から CD コマンドを用意しています。

runcmd.js

添付の runcmd.js は、cscript コマンドのスクリプトファイルであり、テキストファイルです。エクスプローラで runcmd.js を表示してダブルクリックすることでコマンドプロンプトを開くことができると思われます。カレントディレクトリは、C:¥Q に設定されています。ディレクトリのパス名として C:¥Q の¥の代用としてスラッシュを使用してください(C:/Q)。さもなければ、¥ではなく¥¥を記述してください(C:¥¥Q)。コマンドの例

cscript //NoLogo runcmd.js

JScript

Windows 98, Windows 2000, Windows Me, Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Windows 10 は、最初から Windows Script Host (WSH)を用意しています。2011 年にマイクロソフトのウェブページから scd56jp.exe をダウンロードして展開しました。Windows アプリケーションとして、これは、2001 年時点の日本語ヘルプです。JScript という言語で記述されたスクリプトファイルを cscript コマンドで実行できます。たとえば、WSH 5.6 の JScript は、ECMA 262 規格仕様の言語 (ECMAScript Edition 3) です。JavaScript に酷似しています。

必要なファイルです

コマンドプロンプトが開く前に利用者が作業ディレクトリに移動するために、すなわち、**カレントディレクトリを設定するために、ColonYen は、設定ファイルが必要です。**インストールディレクトリで設定ファイルを開くことができない場合、すなわち、C:¥ColonYen¥ColonYen.txt を開くことができない場合、ColonYen は、自動的にこれを作成して終了します。もう一度、ColonYen を起動してください。

第 1 行にパス名

設定ファイルの第 1 行に作業ディレクトリのパス名を記入してください。

第 2 行、第 3 行、第 4 行…にパラメータ

第 2 行には、たとえば、-n0 を記入してください。-n0 が記入された場合、コマンドプロンプトは、画面の中央で最前列に出現します。第 3 行には、たとえば、-w580 を記入してください。コマンドプロンプトの幅が 580 ピクセルであることを意味します。第 4 行には、たとえば、-H390 を記入してください。コマンドプロンプトの高さが 390 ピクセル

であることを意味します。以下同様にパラメータを記入してください。

```
C:¥Q>CD ¥ColonYen  
  
C:¥ColonYen>TYPE ColonYen.txt  
C:¥Q  
-n0  
-H492  
-W677  
  
C:¥ColonYen>
```

	-n0	-n1	-n2	-n3
順序	最前列	最後尾	最後尾	
状態	画面の中央にある。	最小化されている。	画面の中央にある。	ウィンドウ無し

注釈

コマンドプロンプトには、パラメータを空白で区切って並べますが、設定ファイルには、各行に1個のパラメータを記入してください。各行は、パラメータ、タブ、注釈の順に記入してください。テキストエディタでタブを入力するには、たとえば、キーボードの Tab キーを押してください。さもなければ、タブをコピーして貼り付けてください。

```
C:¥Q>CD ¥ColonYen  
  
C:¥ColonYen>TYPE ColonYen.txt  
C:¥Q  
-n0 front  
-H492 height  
-W677 width  
  
C:¥ColonYen>
```

矢印が画面のどこにあるか

ColonYen ウィンドウのタイトルバーに、現在、カーソル(矢印)が画面のどこにあるか表示するには、ColonYen.txt に-w を記入してください。

自動的に終了しない

ColonYen.txt に-w が記入された場合、コマンドプロンプトが開いても ColonYen は、自動的に終了しません。

ピクセル単位

画面の左上を基準として幅方向および高さ方向の距離(座標)がピクセル単位で ColonYen のタイトルバーに表示されます。現在のカーソル位置として、`outside` ならば、ColonYen のテキストエリアの外部にあります。`inside` ならば、ColonYen のテキストエリアの内部にあります。

カレントディレクトリを認識している

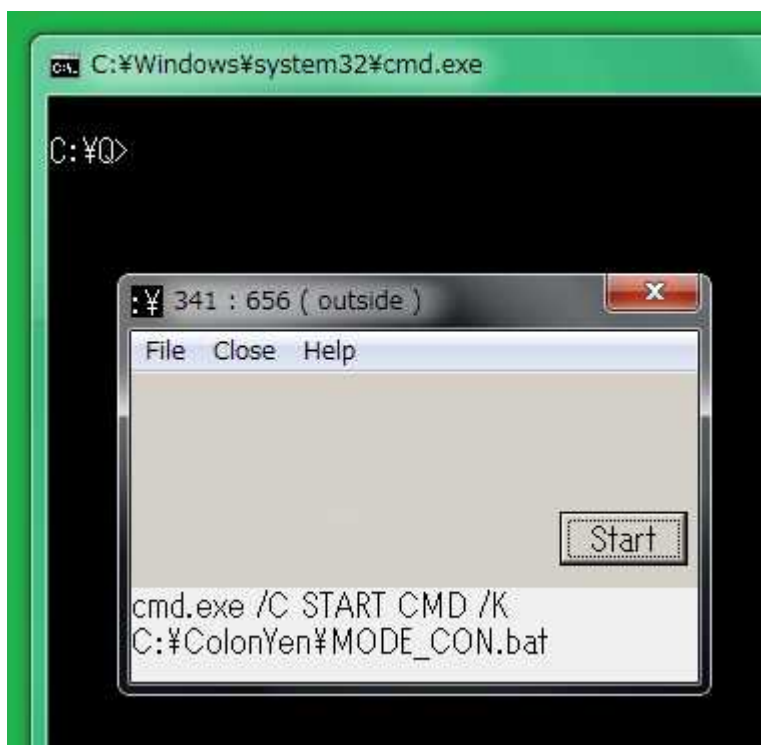
ColonYen ウィンドウは、設定ファイルを読み込んで、カレントディレクトリを認識しています。設定ファイルにしたがって、ColonYen は、コマンドプロンプトを開きますが、いかなるコマンドプロンプトにも従属していません。

独立したウィンドウ

コマンドプロンプトは、ColonYen に従属していません。ColonYen ウィンドウは、コマンドプロンプトとは独立したウィンドウです。ColonYen ウィンドウは、標準出力としてコマンドプロンプトにメッセージを書き出しません。

エラーメッセージ

ColonYen ウィンドウは、カレントディレクトリにエラーメッセージのファイルを書き出す場合があります。ファイル名は、`error.txt` です。



画面の右下

起動の初期段階で、`-c3` が設定されます。すなわち、ColonYen ウィンドウは、画面の右下に移動するように設定されます。

右上に移動

画面の右上に移動するように命令するには、ColonYen.txt に-c2 を記入してください。00

パラメータ	説明
-c0	画面の中央に移動する。
-c1	画面の左上に移動する。
-c2	画面の右上に移動する。
-c3	画面の右下に移動する。
-c4	画面の左下に移動する。

待機

画面に ColonYen ウィンドウが表示されてから 5000 ミリ秒が経過したのち、コマンドプロンプトを開くには、ColonYen.txt に-t5000 を記入してください。5000 ミリ秒は、5 秒のことです。5 秒の待機で捕捉できた ColonYen ウィンドウを下図に示します。



タイトルバー

ウィンドウのタイトルバーに ColonYen のみ表示されます。

バージョン番号

バージョン番号が 1.13 である場合、タイトルバーに ColonYen 1.13 を表示するには、ColonYen.txt に-E を記入してください。



Start ボタン

待機してから、ColonYen は、自動的にコマンドプロンプトを開きますが、待機中、手動で開くには Start ボタンを押してください。

自動的に開く

起動の初期段階で、`-s` が設定されます。すなわち、ColonYen は、自動的にコマンドプロンプトを開きます。

手動で開く

ColonYen が自動的にコマンドプロンプトを開いてはならない場合、ColonYen.txt に `-s-` を記入してください。

終了

ColonYen ウィンドウを閉じるには、メニューバーから File, Close, Help のうち、Close を選択してください。さもなければ、F3を押してください。さもなければ、**[閉じる]** ボタンを押してください。

自動的に閉じます

自動でも手動でもコマンドプロンプトが開いたら、たいてい ColonYen ウィンドウは、自動的に閉じます。

責務

コマンドプロンプトが開いても、まだ ColonYen の責務が果たされていない場合、ColonYen ウィンドウは、自動的に閉じません。たとえば、ColonYen.txt に `-w` が記入された場合、利用者が ColonYen ウィンドウを閉じるまで、現在のカーソル位置として座標を ColonYen のタイトルバーに表示しつづけなければなりません。outside ならば、現在、カーソルは、ColonYen のテキストエリアの外部にあります。

パラメータ	責務	説明
-w	現在のカーソル位置を表示	表示しつづけなければならない。
-n3	ウィンドウ無しの cmd を認識	cmd を放置してはならない。

File メニュー

手動でコマンドプロンプトを開くには Start ボタンを押してください。さもないと、File メニューから Start を選択してください。さもないと、F9 を押してください。

脱出

ColonYen.txt に -w が記入された場合、利用者が ColonYen ウィンドウを閉じるまで、現在のカーソル位置として座標を ColonYen のタイトルバーに表示しつづけますが、このモードから脱出するには、File メニューから Escape を選択してください。タイトルバーに ColonYen のみ表示されます。

cmd.exe

コマンドプロンプトの正体は、cmd.exe です。コマンドプロンプトを閉じることで、cmd.exe を終了できます。さもないと、コマンドプロンプトに EXIT を入力して Enter を押してください。

ウィンドウが無い！

ColonYen.txt に -n3 が記入されている場合、ウィンドウ無しの cmd.exe が起動します。ウィンドウが無いと、利用者は、**[閉じる]** ボタンを押すことができません。EXIT を入力できません。

常駐しているなら強制終了

常駐している cmd.exe を終了するには、File メニューから Terminate を選択してください。さもないと、F7 を押してください。ColonYen ウィンドウは、自動的に閉じます。File メニューの Terminate に対応しているパラメータは、-k です。

Windows XP Home

Windows XP Home には、TASKLIST コマンドおよび TASKKILL コマンドが用意されていません。この場合、利用者が File メニューから Terminate を選択しても、cmd.exe を終了できません。

Windows XP Professional

Windows XP Professional には、TASKLIST コマンドおよび TASKKILL コマンドが用意されています。Windows XP Home ではないことを示すために、インストールディレクトリに XP_PRO.txt を作成してください。作成するコマンドの例を示します。Windows XP Professional のパソコンのみ、この作業が必要です。

VER > C:¥ColonYen¥XP_PRO.txt

プロセスの終了

タスクマネージャーで `cmd.exe` を選択して、終了する手順の例を示します。

1. 画面の下部にあるタスクバーを右クリックしてください。
2. メニューからタスクマネージャーの起動を選択してください。
3. プロセスとして `cmd.exe` を選択してください。
4. [プロセスの終了] ボタンを押してください。
5. タスクマネージャーの **[閉じる]** ボタンを押してください。

メニューからタスクマネージャーの起動を選択

タスクマネージャーを起動するには、タスクバーを右クリックしてメニューからタスクマネージャーの起動を選択してください。さもないければ、`Alt` を押しながら、`Ctrl` を押しながら、`Delete` を押してください。`Alt + Ctrl + Delete` は、この操作を意味します。メニューからタスクマネージャーの起動を選択してください。

選択しないでタスクマネージャーを起動できる

タスクマネージャーを起動するには、`Shift` を押しながら、`Ctrl` を押しながら、`Esc` を押してください。`Shift + Ctrl + Esc` は、この操作を意味します。

CLS コマンド

コマンドプロンプトの画面を消去するには、コマンドプロンプトに `CLS` コマンドを入力して、`Enter` を押してください。画面が消去されて、左上にプロンプトが表示されます。どの Windows も最初から `CLS` コマンドを用意しています。

NUL

パソコンの標準出力は、画面です。画面ではない装置に情報を転送すれば、**画面に出力されません**。`NUL` は、画面でもファイルでもコマンドでもありません。画面ではない装置がファイルであるかのように、`NUL` を入力できます。

NUL にリダイレクト

`NUL` がファイルであるかのように、標準出力を `NUL` に、`>` でリダイレクトすることで、標準出力の内容を画面に表示しないことが可能です。どの Windows も最初から `NUL` を用意しています。

標準エラー出力を NUL にリダイレクト

`NUL` がファイルであるかのように、標準エラー出力を `NUL` に、`>` ではなく `2>` でリダイレクトできます。この場合、標準エラー出力は、画面に表示されません。

ECHO コマンド

Windows の環境変数として、`Path` があります。`PATH` とも書きます。`PATH` の内容を表

示するには、コマンドプロンプトにECHOコマンドおよびパラメータを入力して、Enterを押してください。

ECHO %PATH%

%ERRORLEVEL%

ECHO コマンドは、コマンドプロンプトに値を表示します。終了するときコンソールアプリケーションが Windows に返した値を表示するには、パラメータとして%ERRORLEVEL%を使用します。

ECHO %ERRORLEVEL%

テキストファイルを作成

ECHO コマンドの出力をリダイレクトすれば、テキストファイルを書き出すことができます。たとえば、等号(=)を内容とするテキストファイルを作成するには、コマンドプロンプトに下記のコマンドおよびパラメータを入力して、Enter を押してください。等号および改行がテキストファイルに書き込まれます。

ECHO => equal.txt

CON

昔のコンピュータの入力は、パンチカードでした。キーボードがパンチカードの後継者となりました。コマンドプロンプトが 80 桁であるのは、80 桁のパンチカードの名残らしい。パソコンの標準入力は、キーボードです。Windows 10 の場合、既定値(デフォルト)は、80 桁ではなく 120 桁です。どの Windows も最初から、CON を用意しています。キーボードがファイルであるかのように、利用者は、CON を入力できます。

COPY コマンドと CON を併用する

MORE コマンドと異なり、COPY コマンドは、コピーしたい情報を標準入力から入力できません。COPY コマンドは、y, n, a を標準入力から入力できます(Yes, No, All)。新しいファイル(equal.txt)を書き出すには、コマンドプロンプトに、下記のコマンドおよびパラメータを入力して、Enter を押してください。

COPY CON equal.txt

コマンドプロンプトのプロパティ

コマンドプロンプトのプロパティを表示するには、まず、コマンドプロンプトのタイトルバーを右クリックしてください。次に、メニューからプロパティを選択してください。

既定値

既定値(デフォルト)のコマンドプロンプトは、80 桁、25 行のサイズを有しており、スクロールバーがウィンドウに付与されています。Windows 10 の場合、コマンドプロンプトは、120 桁、30 行のサイズを有しており、スクロールバーがウィンドウに付与されています。

画面バッファのサイズ

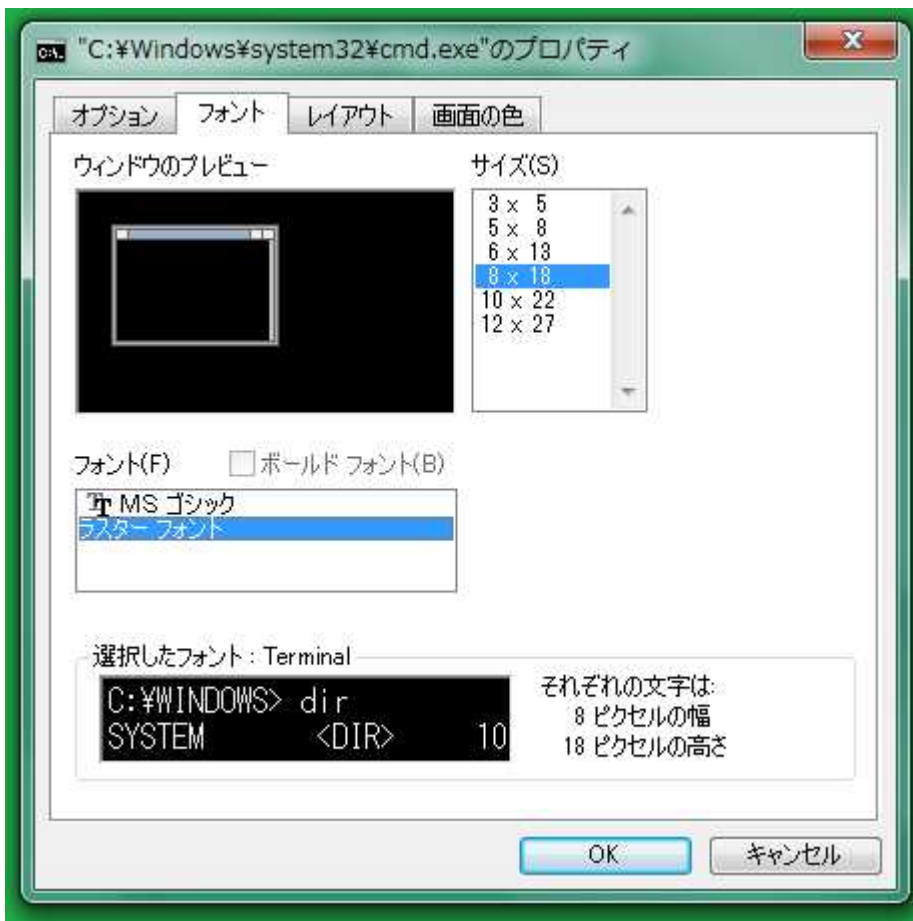
コマンドプロンプトは、300 行のバッファを有しています。Windows 10 の場合、コマンドプロンプトは、9001 行のバッファを有しています。

相似形

利用者がコマンドプロンプトの行数を変更した場合、コマンドプロンプトのプロパティと異なり、ColonYen は、自動的にコマンドプロンプトの桁数を設定できます。

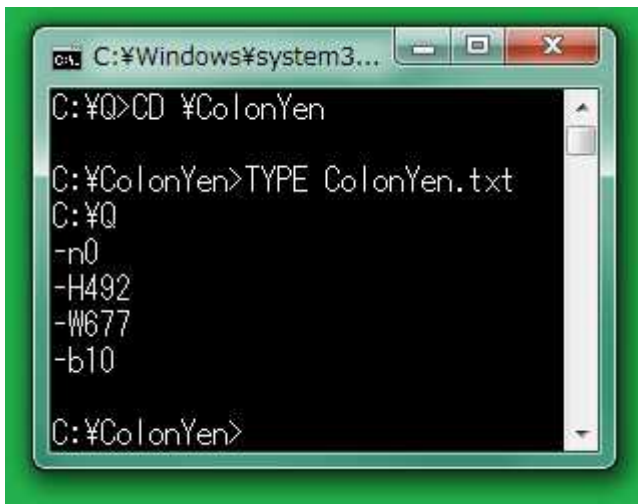
8 × 18

ColonYen は、利用者がフォントを変更しないことを前提としています。フォントは、8 × 18 に設定してください。Windows 10 の場合は、16 に設定してください(8 × 16)。



相似形の行数を設定

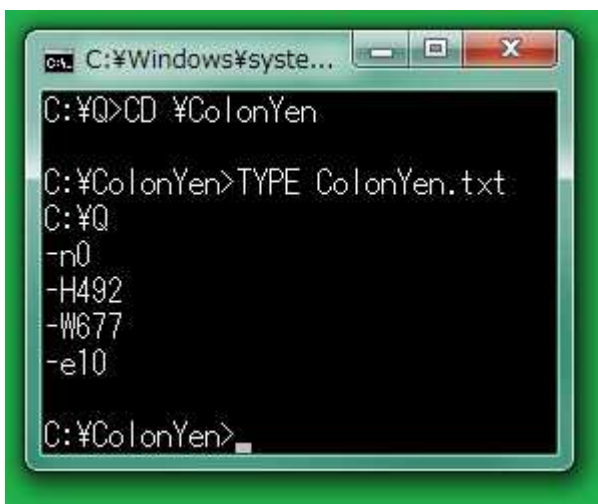
-b 行数を記入することで、デフォルトのコマンドプロンプトの相似形を起動できます。たとえば、相似形として 10 行のコマンドプロンプトを開くには、ColonYen.txt に **-b10** を記入してください。



```
ca: C:¥Windows¥system3...
C:¥Q>CD ¥ColonYen
C:¥ColonYen>TYPE ColonYen.txt
C:¥Q
-n0
-H492
-W677
-b10
C:¥ColonYen>
```

スクロールバーを除去

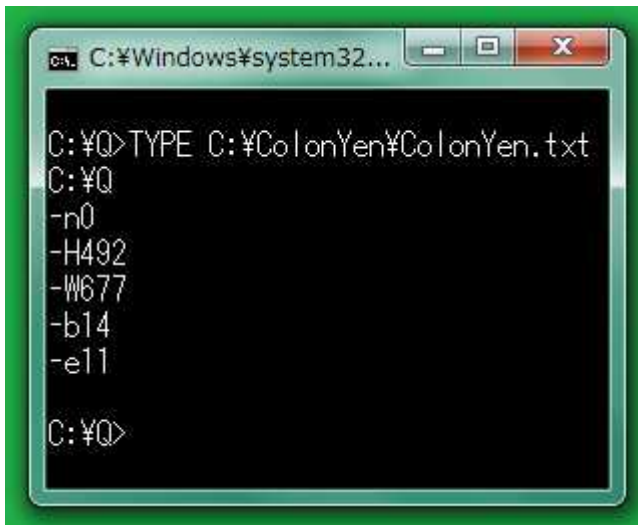
数個のコマンドを実行するだけならばバッファがほとんど必要ありません。この場合、スクロールバーを除去するには、**-e 行数**を指定してください。たとえば、相似形として 10 行のコマンドプロンプトを開くには、ColonYen.txt に **-e10** を記入してください。



```
ca: C:¥Windows¥syste...
C:¥Q>CD ¥ColonYen
C:¥ColonYen>TYPE ColonYen.txt
C:¥Q
-n0
-H492
-W677
-e10
C:¥ColonYen>
```

優先

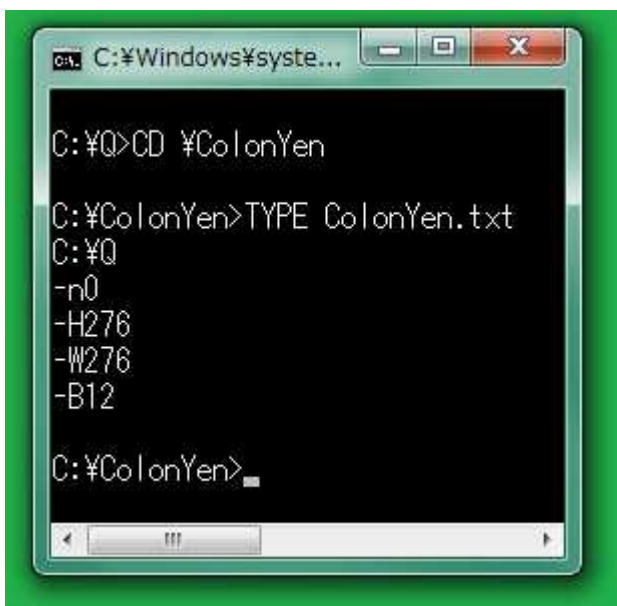
-e 行数は、**-b 行数**より優先されます。**-b 行数**は、**-H ピクセル数**、**-w ピクセル数**より優先されます。下記の例では、**-H492 -W677 -b14** にもかかわらず、ColonYen は、**-e11** が優先権を有していることを認識しています。



```
C:\Windows\system32...
C:¥Q>TYPE C:¥ColonYen¥ColonYen.txt
C:¥Q
-n0
-H492
-W677
-b14
-e11
C:¥Q>
```

画面バッファのサイズを小さくしてみた

-B 行数を記入することで、コマンドプロンプトの画面バッファのサイズを設定できます。表示される行数に等しい数に画面バッファのサイズを設定することで、コマンドプロンプトのウィンドウから垂直スクロールバーのみ除去できた例を下図に示します。



```
C:\Windows\system32...
C:¥Q>CD ¥ColonYen
C:¥ColonYen>TYPE ColonYen.txt
C:¥Q
-n0
-H276
-W276
-B12
C:¥ColonYen>
```

参考値

Windows の各バージョンのウィンドウは、外観が異なります。参考値として、Windows 7 Ultimate で実測した幅、高さの表を示します。

桁	行	スクロールバー付きの幅	高さ	幅
80	25	677	492	660
76	24	645	474	628
73	23	621	456	604
70	22	597	438	580
67	21	573	420	556
64	20	549	402	532
60	19	517	384	500
57	18	493	366	476
54	17	469	348	452
51	16	445	330	428
48	15	421	312	404
44	14	389	294	372
41	13	365	276	348
38	12	341	258	324
35	11	317	240	300
32	10	293	222	276
28	9	261	204	244
25	8	237	186	220
22	7	213	168	196
19	6	189	150	166
16	5	165	132	148

正方形になる

たとえば、300 行のバッファ、57 桁、25 行に設定すれば、スクロールバー付きの正方形になります。-W493 -H492 を ColonYen.txt に記入すればよいことがわかります。

スクロールバー無し

たとえば、13 行のバッファ、32 桁、13 行に設定すれば、スクロールバー無しの正方形になります。-W276 -H276 を ColonYen.txt に記入すればよいことがわかりま

す。

Windows 10

既定値(デフォルト)は、80 桁ではなく120 桁です。コマンドプロンプトは、120 桁、30 行のサイズを有しています。フォントは、16 に設定してください(8×16)。フォントのサイズは、8×16 であるため、16 ピクセルずつ増加します。

実測した幅、高さ

参考値として、Windows 10 で実測した幅、高さの表を示します。

桁	行	幅	高さ
120	30	979	512
116	29	947	496
112	28	915	480
108	27	883	464
104	26	851	448
100	25	819	432
96	24	787	416
92	23	755	400
88	22	723	384
84	21	691	368
80	20	659	352
76	19	627	336
72	18	595	320
68	17	563	304
64	16	531	288
60	15	499	272
56	14	467	256
52	13	435	240
48	12	403	224
44	11	371	208
40	10	339	192
36	9	307	176
32	8	275	160
28	7	243	144
24	6	211	128
20	5	179	112

colonyen コマンドのパラメータ

ColonYen を操作するために、事前に利用者は、ColonYen.txt にパラメータを記入するのが好適です。ただし、ColonYen.txt の記入内容にかかわらず、コマンドプロンプトに、colonyen コマンドおよびパラメータを入力して、Enter を押すことで、ColonYen を操作できます。

起動の初期段階

ColonYen が起動する初期段階で、ColonYen は、以下のパラメータが設定されます。

パラメータ	説明
-c3	画面の右下に移動
-t1000	1000 ミリ秒の待機
-n0	最前列
-W677	677 ピクセルの幅
-H492	492 ピクセルの高さ
-s	自動的に開く
-o	次にパラメータが来る印
"/C START CMD /K C:¥ColonYen¥MODE_CON.bat"	CMD にわたすパラメータ
cmd.exe	CMD

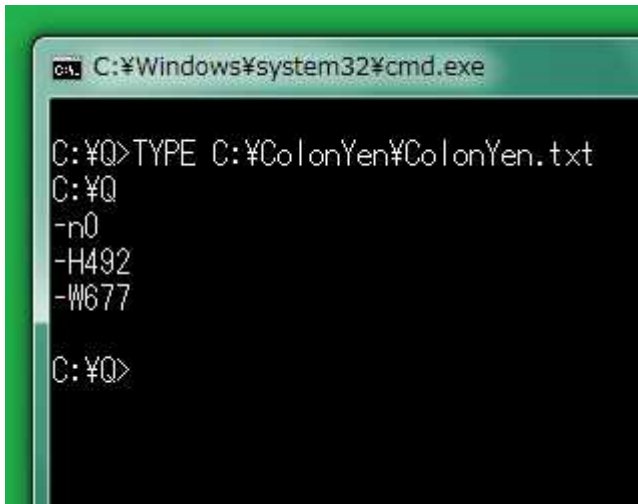
開くことができない

コマンドプロンプトを開くとき CMD にわたすパラメータとしては、上記の以外に "/T:0F" があります。C:¥ColonYen¥MODE_CON.bat を開くことができない場合、"/T:0F" のパラメータに変更されます。これにより、黒い背景に白い文字を表示します。

設定ファイル

設定ファイルとして ColonYen.txt を開くことができない場合、ColonYen は、自動的に ColonYen.txt を作成します。テキストエディタで、利用者は、ColonYen.txt の閲覧および編集が可能です。ColonYen.txt の第 1 行に作業ディレクトリのパス名を記入してください。第 2 行、第 3 行、第 4 行…は、行の順序を変更できる可能性が高い。たとえば、-o および-q は、行の順序に注意してください。

行番号	パス名またはパラメータ	説明
1	C:¥Q	作業ディレクトリのパス名
2	-n0	最前列
3	-H492	492 ピクセルの高さ
4	-W677	677 ピクセルの幅



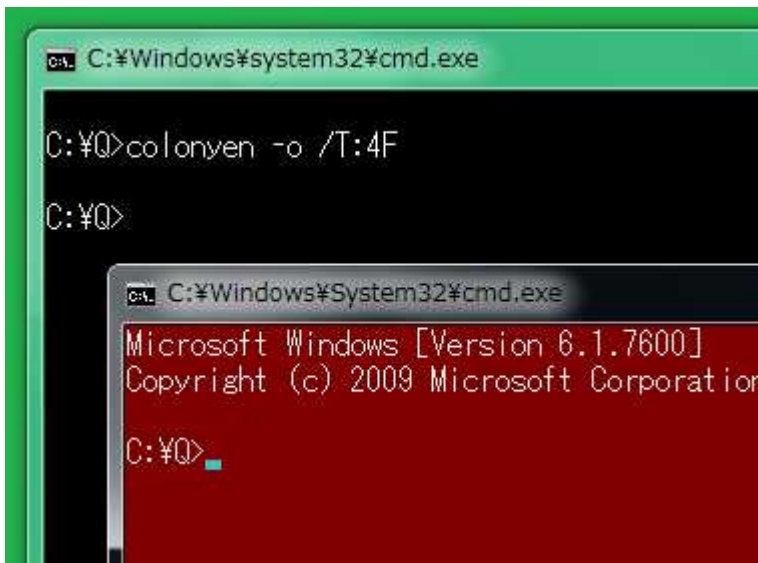
```
C:\> C:\Windows\system32\cmd.exe

C:\> TYPE C:\ColonYen\ColonYen.txt
C:\>
-n0
-H492
-W677

C:\>
```


次にパラメータが来る印

黒い背景ではなく赤い背景に白い文字を表示するには、CMD コマンドにわたすパラメータとして、"/T:4F"を付加できます。次にパラメータが来る印として、-o を前置してください。CMD コマンドにわたすパラメータを引用符で囲むのが好適です。引用符で囲まなくても CMD コマンドにわたすことができた例を下図に示します。



```
C:\> C:\Windows\system32\cmd.exe

C:\> colonYen -o /T:4F
C:\>
```



```
C:\> C:\Windows\System32\cmd.exe

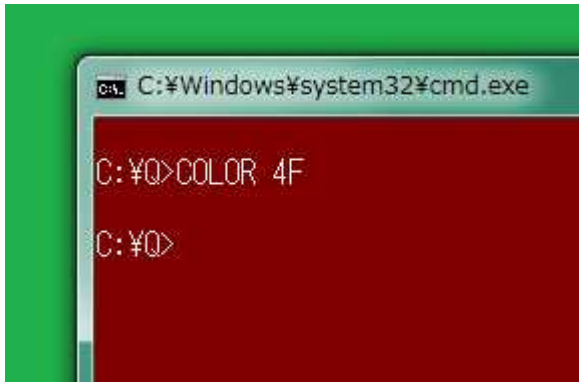
Microsoft Windows [Version 6.1.7600]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation

C:\>
```

COLOR コマンド

黒い背景ではなく赤い背景に白い文字を表示するには、背景が黒いコマンドプロンプトに下記の COLOR コマンドおよびパラメータを入力して Enter を押してください。

COLOR 4F



十六進数	色
0	黒
1	青
2	緑
3	水色
4	赤
5	紫
6	黄色
7	白
8	灰色
9	明るい青
A	明るい緑
B	明るい水色
C	明るい赤
D	明るい紫
E	明るい黄色
F	輝く白

無効にしたい

たとえば、-s-は、-s を無効にします。起動の初期段階で-s が設定されますが、利用者は、ColonYen.txt に-s-を記入できます。

何回でも指定できる

ColonYen.txt に-s-が記入された場合でも、colonyen コマンドのパラメータとして、-s を付加できます。コマンドプロンプトに入力されたパラメータが設定ファイルより優先されるため、ColonYen は、自動的にもうひとつのコマンドプロンプトを開きます。

パラメータ	説明	無効にするパラメータ
-E	タイトルバーにバージョン番号を表示する。	-E-
-G	短い説明を含む version.txt を書き出す。	-G-
-k	常駐している cmd.exe を強制的に終了する。	-k-
-o	CMD にわたすパラメータが次に来る印	-o-
-p	ColonYen.pdf を表示する。	-p-
-q	exe ファイルの名前が次に来る印	-q-
-s	自動的にコマンドプロンプトを開く。	-s-
-V	バージョンの version.txt を書き出す。	-V-
-w	タイトルバーにカーソルの座標を表示する。	-w-

ヘルプ

ヘルプは、このPDFファイル(ColonYen.pdf)です。ColonYen.pdfを表示するには、ColonYen ウィンドウのメニューバーから、File, Close, Help のうち、Help を選択してください。代替法として、エクスプローラから閲覧する方法も下表に示します。

ウィンドウ	手順
ColonYen	Help を選択する。
エクスプローラ	ColonYen.pdf をダブルクリックする。
コマンドプロンプト	colonyen -p を入力して Enter を押す。
	ColonYen.pdf を入力して Enter を押す。

バージョン番号

ColonYen ウィンドウを開かないでバージョン番号を取得するには、まずコマンドプロンプトに下記のコマンドおよびパラメータを入力して Enter を押してください。次に、version.txt を閲覧してください。

colonyen -V

短い説明

用例および短い説明を取得するには、まずコマンドプロンプトに下記のコマンドおよびパラメータを入力して Enter を押してください。次に、version.txt を閲覧してください。--help は、-G と同じ結果を生じます。-VC は、-G と同じ結果を生じます。

colonyen -G

常駐しているなら強制終了

File メニューの Terminate に対応しているパラメータは、`-k` です。コマンドプロンプトに下記のコマンドおよびパラメータを入力して Enter を押してみてください。唯一のコマンドプロンプトであれば、EXIT を入力しないにもかかわらず、コマンドプロンプトが閉じます。**[閉じる]** ボタンを押さないにもかかわらず、コマンドプロンプトが閉じます。

colonyen -k

TASKLIST コマンド

`-k` が付加された場合、colonyen コマンドは、ColonYen ウィンドウを開きます。ColonYen は、300 ミリ秒ごとに TASKLIST コマンドを実行します。cmd.exe の ID を付加した TASKKILL コマンドを実行して cmd.exe を強制的に終了します。

手順

ColonYen が 300 ミリ秒ごとに工程(ステップ)を実行する手順を示します。

1. TASKLIST コマンドを実行して、CMD_PID1.txt を作成します。
2. TASKLIST コマンドを実行して、CMD_PID2.txt を作成します。
3. 2 回の実行で、cmd.exe の ID が同一であれば、その ID を付加した TASKKILL コマンドを実行します。cmd.exe が終了します。
4. ColonYen ウィンドウも閉じます。

調整

300 ミリ秒の 4 倍の 1.2 秒もかかるため、工程の周期を短縮したいかもしれません。必要に応じて、slow.txt の第 3 行を編集してください。工程の周期を延長する必要があるかもしれません。たとえば、Windows 10 の場合、slow.txt の第 3 行に 300 ではなく 1200 を記入してみてください(単位は、ミリ秒)。

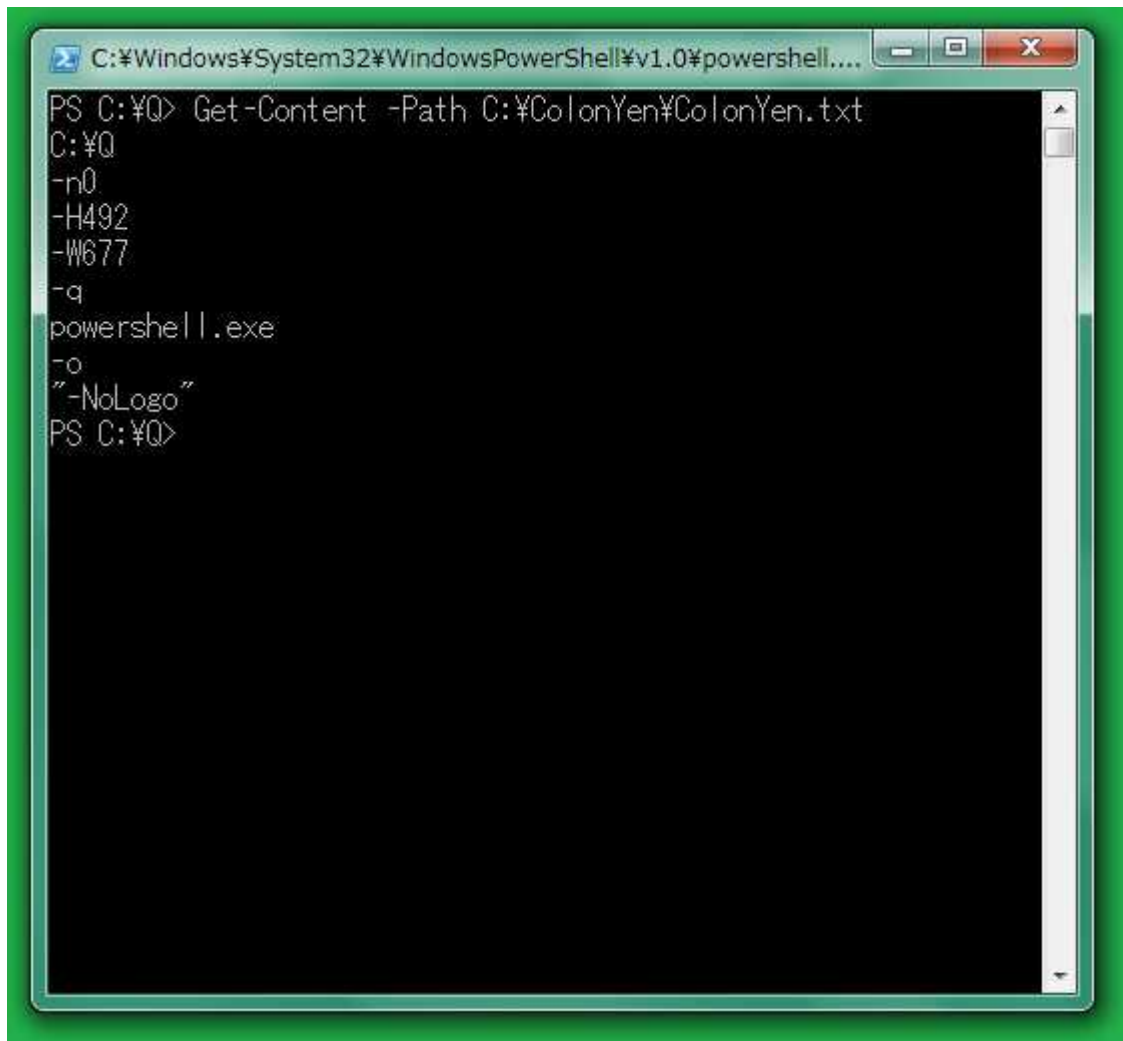
行番号	数値	説明
1	2147483647	コマンドプロンプトを開くまでの待機時間(遅延)の最大値
2	500	タイトルバーにカーソル位置を表示する周期
3	300	File メニューの Terminate の工程の周期
4	600	FindWindow()を試行するまでの待機時間

注釈

slow.txt の各行に数値を記入してください。注釈を記入するには、タブを挿入してください。数値、タブ、注釈を各行に記入してください。ColonYen.txt と異なり、slow.txt では、区切り文字として空白を利用できます。すなわち、数値、空白、注釈を各行に記入できます。slow.txt では、区切り文字として#を利用できます。

PowerShell ウィンドウを開く

ColonYen は、MODE コマンド、TASKLIST コマンド、TASKKILL コマンドを利用します。コマンドプロンプトを開くのに適していますが、cmd.exe を powershell.exe に変更することで、ColonYen は、PowerShell ウィンドウを開くことができます。cmd.exe を powershell.exe に変更するために、-q の次に powershell.exe を記入しました。PowerShell にわたすパラメータとして、-o の次に "-NoLogo" を記入しました。

A screenshot of a Windows PowerShell window. The title bar shows the path 'C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe'. The command prompt shows 'PS C:\> Get-Content -Path C:\ColonYen\ColonYen.txt'. The output is displayed as follows:

```
C:\>
-n0
-H492
-W677
-q
powershell.exe
-o
"-NoLogo"
PS C:\>
```

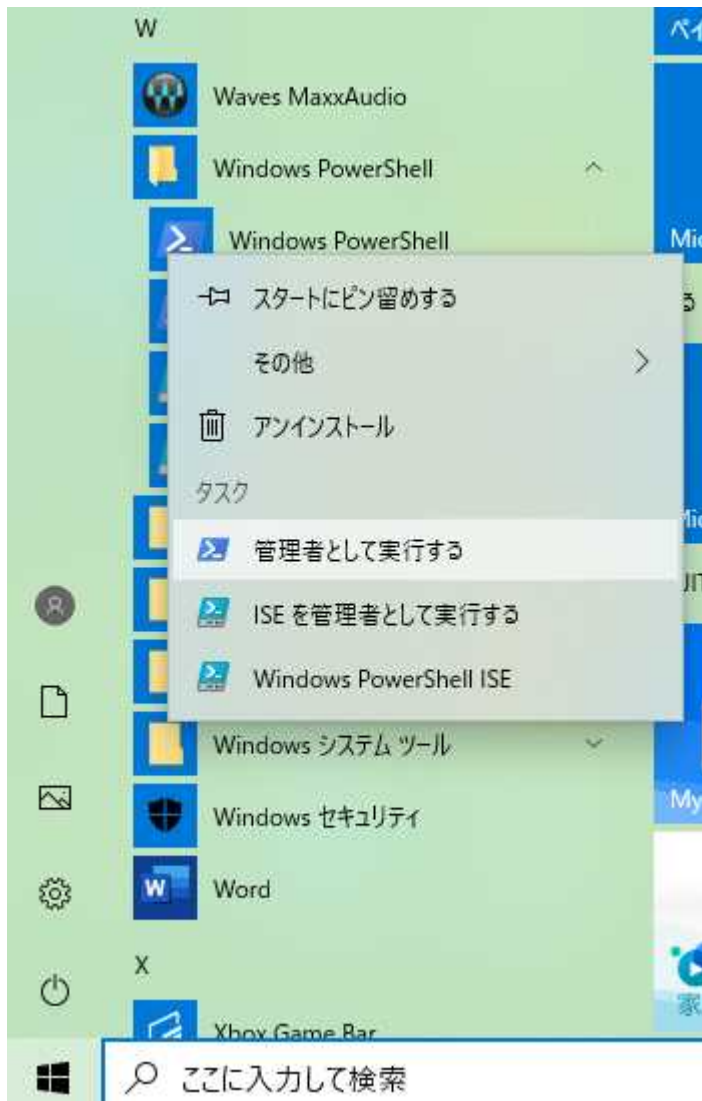
ご注意

PowerShell ウィンドウを開く前に、ColonYen は、カレントディレクトリを設定できます。ColonYen は、コマンドプロンプトに適しており、PowerShell ウィンドウを感知できないため、PowerShell ウィンドウの幅、高さを設定できません。

管理者 PowerShell

Windows 10 のスタートメニューから管理者 PowerShell を開くことができます。まず W の見出しのグループから Windows PowerShell を選択してください。Windows

PowerShell を右クリックしてください。メニューから[管理者として実行する]を選択してください。



java.exe のウィンドウを最小化

ColonYen は、コマンドプロンプトを開くのに適していますが、`cmd.exe` を `java.exe` に変更することで、ColonYen は、Swing のウィンドウを開くことができます。Swing は、Java の GUI ライブラリです。

xbm

XBM は、X11Bitmap であり、UNIX のモノクロ画像形式です。XBM は、Windows ビットマップではありません。ファイル名の拡張子は、`.xbm` であり、古いウェブブラウザで表示できます。たとえば、マイクロソフトの Internet Explorer 6.0 (IE6) で下記の `xbm_box.html` を表示できます。`knot.xbm` は、ひらがなの「つ」に見えます。

```
<html>
```

```
<head>
  <meta charset="UTF-8" />
  <title>XBM box</title>
</head>
<body>
  <h1>XBM box</h1>
  <p></p>
</body>
</html>
```



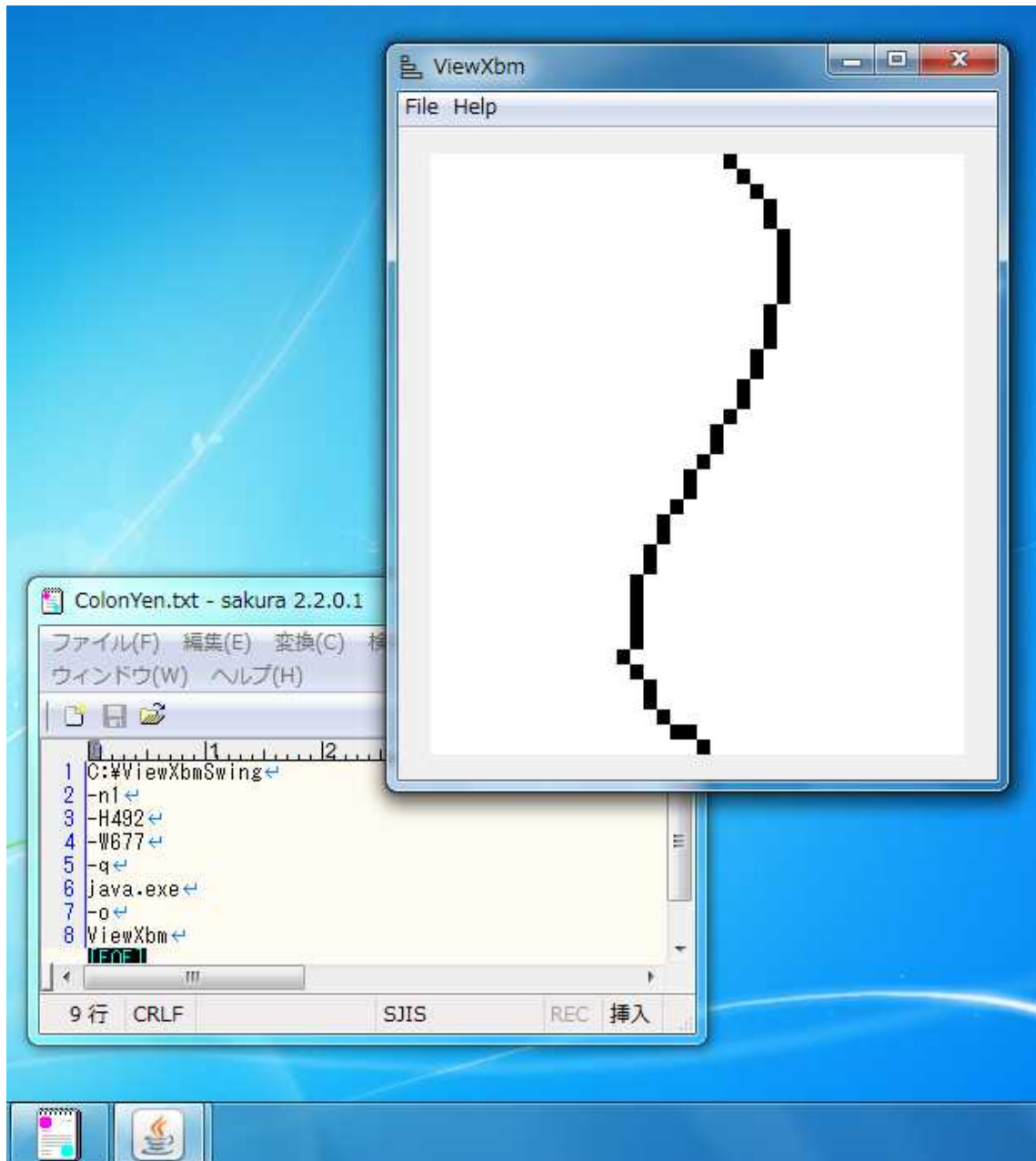
ViewXbm

java.exe を起動する前に、ColonYen.txt にしたがって ColonYen がカレントディレクトリを C:\¥ViewXbmSwing に設定するように、このパス名を第 1 行に記入しました。-q の次に java.exe を記入しました。java.exe にわたすパラメータとして、-o の次に ViewXbm を記入しました。コマンドプロンプトで下記のコマンドを実行することと同等のことを ColonYen をダブルクリックするだけで実現したい。

java ViewXbm

最小化

さらに、`java.exe` のウィンドウを最小化するために、`-n0` ではなく `-n1` を記入しました。ColonYen のショートカットをダブルクリックした結果を下図に示します。湯気が立ち上っているコーヒーカップのアイコンが二重にタスクバーに表示されています。そこにカーソルを移動すると、現在、`java.exe` のウィンドウおよび `ViewXbm` ウィンドウが実行されていることがわかります。



複合パラメータ

たとえば、`-Es` は、`-E -s` と同じ結果を生じます。`-sw` は、`-s -w` と同じ結果を生じ

ます。

無効にできるパラメータ

ColonYen.txt に `-s` が記入された場合でも、`colonyen` コマンドのパラメータとして、`-s` を付加できませんが、`-E -s -w` など無効にできるパラメータを組み合わせ、複合パラメータを構成できる場合があります。うまくいかない例として、`-E` および `-w` のいずれも ColonYen ウィンドウのタイトルバーに情報を表示するため、`-EW` は、`-E` ではなく `-w` の結果のみ生じます。

調整

ColonYen は、まず `MODE` コマンドを実行して、次にコマンドプロンプトを感知して、ウィンドウの移動および縮小を行います。コマンドプロンプトを感知する感度を調整するために、必要に応じて、利用者は、`slow.txt` を編集できます。

START コマンド

コマンドプロンプトにコマンドを入力して、もうひとつのコマンドプロンプトを開くには、以下のコマンドおよびパラメータを入力してください。

START CMD

バッチファイルを起動

コマンドプロンプトにコマンドを入力して、新しいコマンドプロンプトを開いて、新しいコマンドプロンプトでバッチファイルを起動して、新しいコマンドプロンプトを開いたまま放置するには、以下のコマンドおよびパラメータを入力してください。

START CMD /K MODE_CON.bat

MODE コマンド

`MODE` コマンドでコマンドプロンプトの桁、行を設定できます。コマンドプロンプトのプロパティによれば、画面バッファのサイズが変更されます。たとえば、32 桁、10 行のコマンドプロンプトに 5000 行のバッファを設定するには、以下のコマンドをまず実行します(次に、`Win32API` を利用します)。

MODE CON: COLS=32 LINES=5000

MODE_CON.bat

ColonYen は、`CMD` を起動できますが、自分で `START` コマンドを実行しないで、`CMD` に `START` コマンドを実行させます。`START` コマンドを実行した `CMD` は、`/C` が指定されているため、ただちに終了します。`/c` は、`/C` と同じ結果になります。以下は、

ColonYen の内部で使用されるコマンドおよびパラメータです。

```
cmd.exe /C START CMD /K C:¥ColonYen¥MODE_CON.bat
```

Win32API

32 桁、10 行のコマンドプロンプトに 5000 行のバッファを設定するために、ColonYen は、上記のコマンドをまず実行します。次に、Win32API を利用して、ColonYen は、新しいコマンドプロンプトを感知して、コマンドプロンプトの移動および縮小を行います。

鈍重になりがちだ

ColonYen がコマンドプロンプトを感知する観点で、slow.txt の第 4 行は、数値が高いほど感知しやすいことを示します。感度が高い。ただし、数値が高いほど、ColonYen の作動が鈍重になるため、数値が低いのが好適です。

待機時間の最大値

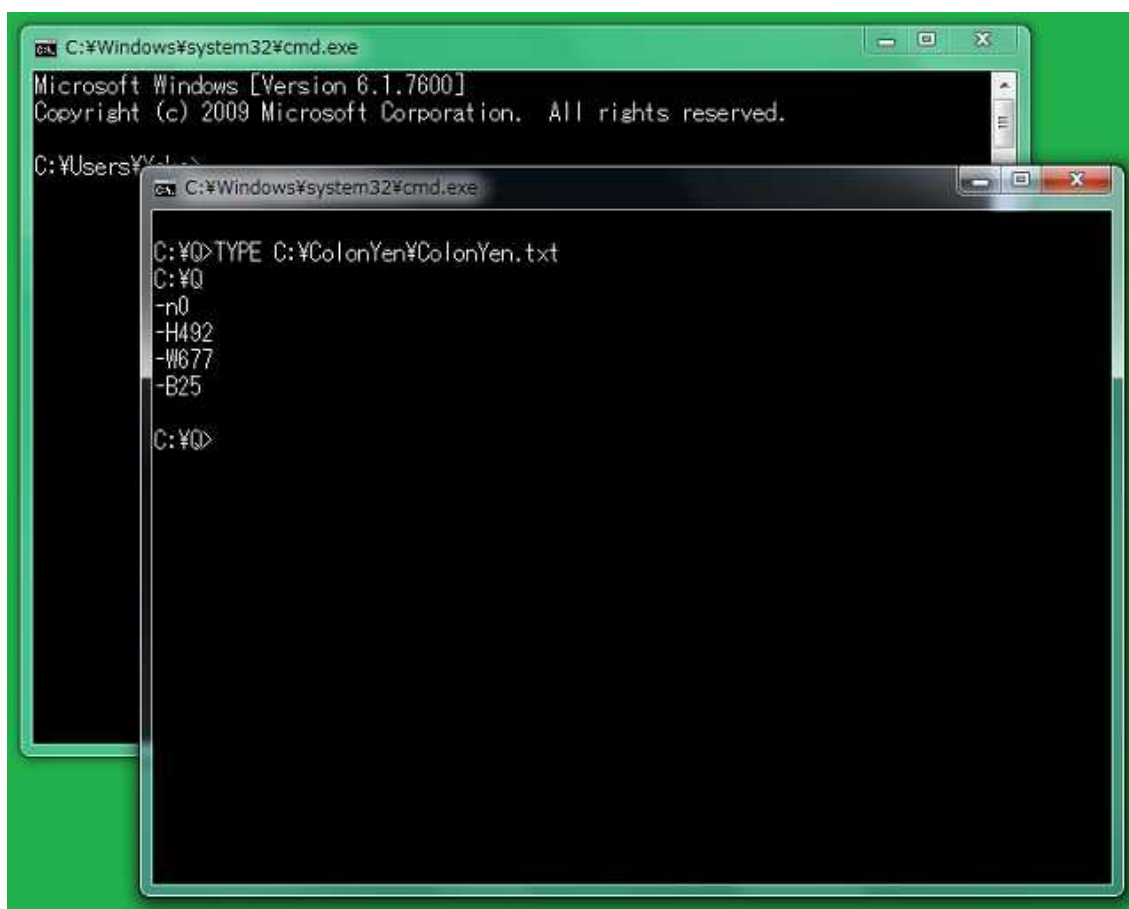
初期段階で、1000 ミリ秒の待機に設定されています。ColonYen が自動的にコマンドプロンプトを開くまで待機する時間(遅延)の最大値を slow.txt の第 1 行に記入できます。最大値を非常に小さくすることで、最大値が優先されます。たとえば、slow.txt の第 1 行に 70 を記入した場合、コマンドのパラメータとして -t5000 を入力しても 70 ミリ秒の待機に設定されます。

位置特定周期

どこにカーソルがあるか、位置特定周期を第 2 行に記入してください。

便法

Win32API の FindWindow() でコマンドプロンプトを感知できなかった場合、利用者は、異常な高さのウィンドウが放置されていることに気付きます。異常な高さにならない便法としては、画面バッファのサイズを表示行数に一致させる方法があります。たとえば、Windows 7 の場合、80 桁 25 行のコマンドプロンプトを表示するには、画面バッファのサイズを 25 にします。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7600]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Y\l>

C:\Windows\system32\cmd.exe
C:\>TYPE C:\ColonYen\ColonYen.txt
C:\>
-n0
-H492
-W677
-B25
C:\>
```

経緯

スクロールバー付きのウィンドウは、ColonYen のショートカットをダブルクリックする前に開かれていました。再現する手順を示します。

1. ColonYen.txt に-B25 を記入してください。
2. Windows ロゴキー(田キー)を押しながら R を押してください。[ファイル名を指定して実行]ウィンドウが開きます。
3. 名前欄に cmd を入力してください。
4. Enter キーを押してください。さもなければ、OK ボタンを押してください。スクロールバー付きのウィンドウが開きます。Microsoft Windows の著作権が表示されます。まだカレントディレクトリは、設定されていないため、利用者は、CD コマンドで作業ディレクトリに移動しなければなりません。
5. ColonYen のショートカットをダブルクリックしてください。スクロールバー無しウィンドウが開きます。ColonYen.txt にしたがって、ColonYen は、カレントディレクトリを設定しました。

スクロールバー無しウィンドウ

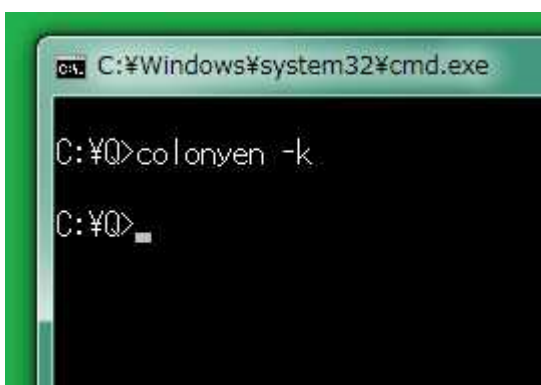
画面バッファのサイズを表示行数に一致させたため、スクロールバーが無いウィンドウが新たに開きました。上図の場合、新しいウィンドウの背後にあるウィンドウは、

スクロールバーがあります。

どちらのコマンドプロンプトが閉じるだろうか？

常駐している `cmd.exe` を強制的に終了するために、`colonyen` コマンドのパラメータとして `-k` を付加してください。すなわち、コマンドプロンプトに下記のコマンドおよびパラメータを入力して `Enter` を押してください。`ColonYen` がコマンドプロンプトを開く前に常駐していたコマンドプロンプトが閉じました。

colonyen -k



管理者コマンドプロンプトが閉じなかった

管理者コマンドプロンプトを開くには、たとえば、管理者 PowerShell に `START CMD` を入力して `Enter` を押してください。Windows 10 の場合、利用者が `File` メニューから `Terminate` を選択しても、`ColonYen` は、管理者コマンドプロンプトを閉じることができませんでした。

